



平成 21 年 3 月 25 日

各 位

会 社 名 曙ブレーキ工業株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 信元 久隆  
 (コード番号 7238 東証第一部)  
 問合せ先 代表取締役副社長・CFO 荻野 好正  
 (TEL. 048-560-1501)

### 特別損益の発生・業績予想の修正及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、来期以降の早期業績回復を実現するためにコスト構造改革の断行を決定し、それに伴い特別損益が発生する見込みとなり、平成 21 年 2 月 2 日に公表いたしました連結業績予想を下記のとおり修正し、期末配当予想についても修正をいたしましたので、お知らせいたします。

記

#### 1. 平成 21 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	158,000	△6,500	△8,500	△7,000	△65 円 22 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	158,000	△6,500	△9,000	△16,000	△149 円 07 銭
増 減 額 (B-A)	0	0	△500	△9,000	—
増 減 率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	184,731	15,158	12,619	6,637	61 円 85 銭

(修正の理由)

昨年 9 月からの金融危機以降、国内外完成車メーカーにおいて、販売不振・在庫調整などによる過去に例がない大幅な減産が続いております。当社におきましても、その影響が第 3 四半期後半から第 4 四半期に特に顕著に現れ、当期の営業利益については平成 21 年 2 月 2 日に公表したとおり、大幅な営業赤字を計上する見込みであります。来期 (平成 22 年 3 月期) においても、国内外完成車メーカーの在庫調整は上半期末まで長引くと予想され、当社の来期の業績にも多大な影響を及ぼすと考えられます。

この難局を乗り越え、来期以降の業績の早期回復を実現するために、大胆なコスト構造改革を断行することにいたしました。このコスト構造改革のために、当期は大幅な特別損失を計上し、主として当期純利益について、上記のとおり業績予想の修正を行うことといたします。

コスト構造改革に向けた主要な取り組みと、それらによる特別損益の内訳は以下となります。

国内生産拠点再編及び日米固定資産の減損及び整理によりバランスシートをスリム化し、来期以降の固定費の大幅な削減を図る

#### a. 日本国内生産拠点の再編のスピードアップ及び固定資産の減損等

- 平成 19 年 7 月 2 日に公表いたしました「国内生産拠点の再編に関するお知らせ」のとおり、福島県に所在する生産子会社である曙ブレーキ三春製造(株)、曙ブレーキいわき製造(株)及び埼玉県に所在する曙ブレーキ羽生製造(株)から他生産子会社への生産移管を平成 21 年 12 月末までに再編を完了させます。この再編に係る費用については当期に引当処理を行います。また、大幅な減産が長期的に続くと考えられることから、余剰になると見込まれる生産設備等、再編に伴い今後の継続利用が困難な固定資産、事業環境の大きな変化に伴い開発計画を見直したソフトウェアについても当期に処理をいたします。

#### b. 北米の固定資産減損

- 北米においても大幅な減産が続いており、固定資産の減損処理を当期に実施いたします。

希望退職による人員適正化

- c. 北米においての人員適正化に引き続き、国内においても平成 21 年 3 月 17 日公表いたしました「希望退職者の募集に関するお知らせ」の内容のとおり、本社系社員の人員適正化を実施いたします。そのための引当処理を当期に行います。

当社本店ビルの一部売却によるバランスシートのスリム化

- d. 当社日本橋本店ビルは、一部を賃貸としておりましたが、経営理念に基づきコア事業への経営資源の集中をはかる方針から、平成 21 年 3 月 17 日公表いたしました「固定資産の譲渡に関するお知らせ」の内容のとおり、日本橋本店ビルの一部を売却いたしました。これに伴い特別利益を計上いたします。

上記による当期業績への影響額（特別損益の内訳）

特別利益	d.本店ビル売却益	約 31 億円
特別損失	a.国内生産拠点の再編損失・資産の減損等 以下内訳	約 100 億円
	（・生産設備の減損処理	約 25 億円
	（・その他資産の減損・廃却等	約 45 億円
	（・生産移管に伴う諸費用等	約 30 億円
	b.北米の固定資産減損処理	約 21 億円
	c.希望退職募集による特別加算金	約 13 億円
	特別損失 合計	約 134 億円

尚、上記以外に、2 月 2 日の公表値に含まれている以下の内容を特別損益に織り込んで今回の修正をいたします。

特別利益	退職給付制度終了益	約 9 億円
特別損失	投資有価証券評価損	約 19 億円
	北米再編損失	約 12 億円
	特別損失 合計	約 31 億円

（ご参考：来期の見通しについて）

来期については、世界経済の先行き不透明感が強く、売上高予想の前提となる完成車メーカーの生産計画にも不明な部分が残っており、当期に比べて来期売上高は更に落ち込むことが予想されます。当社としては、前述のコスト構造改革及びその他の諸施策の実行により、人件費及び償却費の大幅な圧縮、高性能ブレーキ開発の効率化に伴う投入経営資源の縮小、イベント・委託業務等の見直しによる費用削減等、その他の固定費・経費についても大幅な削減を断行し、利益の大幅な改善をはかります。加えて、高騰が続いていた資材価格の下落による費用の減少等も見込まれます。

上記施策等を確実に実現することにより、当社グループの総力をあげ、通期での営業利益、経常利益ベースでの黒字化を実現いたします。

（ご参考：当期業績予想の修正履歴）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
平成 20 年 5 月 7 日 期初予想	172,300	13,000	11,000	5,800	54 円 04 銭
平成 20 年 9 月 26 日 修正発表	179,700	6,800	5,100	2,500	23 円 30 銭
平成 21 年 2 月 2 日 修正発表	158,000	△6,500	△8,500	△7,000	△65 円 22 銭
今回修正予想	158,000	△6,500	△9,000	△16,000	△149 円 07 銭

※上記の予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 期末配当予想の修正

### (1) 平成21年3月期配当予想修正の内容

基準日	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
前回予想 (平成21年2月2日)	円 銭 —	円 銭 5.00	円 銭 —	円 銭 (未定)	円 銭 (未定)
今回修正予想	—	—	—	0.00	5.00
当期実績	—	5.00	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	—	5.00	—	5.00	10.00

### (2) 修正の理由

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題のひとつとして位置づけており、業績及び配当性向、持続的な成長のための投資資金としての内部留保などを総合的に考慮しながら、長期的に安定した配当の維持を基本としております。

しかしながら、当期の期末配当予想につきましては、平成21年2月2日公表時点では期末配当予想を「未定」とさせていただいておりましたが、当期業績予想がさらに悪化する見通しとなったことや、当面厳しい経営環境が続くと予想されることから、誠に遺憾ではございますが上記のとおり修正させていただきます。

以 上